

地域医療連携室

フレンドィーだより

Community medicine cooperation room



地域がん診療連携拠点病院の指定を受けたため講師を迎え院内講演会が行われました。(H19.10.10)「がん診療連携拠点病院における緩和ケアー理想と現実ー」



2007

vol.25

H19.11 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : friendly@med.kurobe.toyama.jp

病院紹介

こいずみクリニック

本年4月10日より黒部市牧野にて「こいずみクリニック」を開院致しました。

黒部市民病院には昭和62年以来20年間お世話になりました。これまで新川地区には泌尿器科開業医がなく、術後の患者さんの経過観察や慢性疾患の投薬、検診のスクリーニング等全てを病院でやっていました。そのせいで外来の待ち時間が非常に長くなり患者さん方に大変ご迷惑をおかけしていました。

そういう点で病院勤務時代から、病院からの受け皿となってくれる泌尿器科専門の開業医があれば良いのにと度々思っていました。今回はからずも自分がその立場に立つことになりました。

当院では入院、手術設備はなく、一方平日午後や土曜日の診療を行っており病院とはお互いに補完関係にあり、フレンドリーや扇状地ネットを通じて今後とも病診連携を深めていきたいと思えます。

また、地域の開業医の先生方とも診診連携を進めさせていただきたいと思えますのでどうぞよろしくお願い致します。



外来診療科目

泌尿器科・内科

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	●	●	●	●	●	● ~13:00
午後 14:30~18:00	●	●	●	△	●	△

※休診日/日曜・祝日・木曜午後

所在地

〒938-0035

黒部市牧野780-1

TEL (0765)56-6006

FAX (0765)56-6333

ホームページ www.myclinic.ne.jp/koizumi_cl/

フットケアをしています

呼吸器血管外科
浦山 博

生活習慣病である糖尿病や動脈硬化が増えています。糖尿病になると足の感覚がなくなり傷をつくりやすくなります。また、ばい菌に対する抵抗力や傷を治す力が弱くなっており、小さな傷から足の壊疽をきたすこともまれではありません。動脈硬化が進行すると足の動脈が閉塞し血流障害から足の壊死をきたします。最近では下肢切断のほとんどがこの糖尿病と動脈硬化を原因とするものとなっています。糖尿病による足壊疽はくつずれ、うおのめやたこ、軽いやけどなどから始まっています。早く見つけて治療すれば下肢切断に至ることはありません。動脈硬化による下肢壊死の最初の症状は歩くと足が痛む、足が冷たいなどから始まります。早期に的確な治療を開始すれば下肢切断に至ることはありません。

糖尿病や動脈硬化の患者さんの足を診ています。足の難治性潰瘍を診ています。内科、皮膚科、血管外科、形成外科の外来で診察しています。病棟や腎センターでは看護師が足のチェックをして必要なら爪きり、うおのめやたこ削り、炭酸浴、保湿軟膏塗布、弾性ストッキングの指導などを行っています。金曜日の午後は血管外科外来にてフットケアを行っています。静脈性皮膚潰瘍、リンパ浮腫、下肢閉塞性動脈硬化症などの足の治療、自宅療養の指導を行っています。月1回内科、皮膚科、血管外科、形成外科、整形外科の医師、理学療法士、看護師が集まって症例検討会、勉強会を開いています。そこでは靴、足の装具の方に来ていただいて助言をいただいたり、患者さんにあった靴を作ってもらうこともあります。

治りにくい足の傷は循環障害以外にも、皮膚の癌、膠原病などが原因のことがあります。たばこが原因のバージャー病で手指や足趾の潰瘍を作ってくる人がいます。足の病変をチーム医療で治していきます。早期発見に努め、悪化するのを予防します。足を使っただけの運動で生活習慣病の予防になります。フットケアは転倒転落予防にも重要です。生活指導にフットケアを取り入れてください。足のことで困ったときには市民病院を受診させてください。



弾性ストッキング



足浴



爪切り

診療科紹介

精神神経科 心療内科



安井伸一部長と外来スタッフ

診療体制

現在医師常勤1名、他に富山大学神経精神医学講座より木、金曜日の午前に応援医師の派遣を受け、診療に当たっています。

また精神保健福祉士が1名常勤しております。

対象疾患

1. 症状性を含む器質性精神障害
2. 精神作用物質使用による精神及び行動の障害
3. 統合失調症、及び妄想性障害
4. 気分障害
5. 神経症性障害、ストレス関連障害、及び身体表現性障害
6. 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群
7. 成人の人格及び行動の障害
8. 精神遅滞
9. 心理的発達の障害
10. 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害
11. てんかん

など青年期から老年期にみられる精神疾患全般です。

特色・特徴

当科は、新川地区で唯一の総合病院、常設精神科として精神疾患全般の治療をオールラウンドに行っています。

1. 認知症等についてはMRI、SPECT等による脳画像検査を併用することによって診断精度を高めるとともに、問題行動などに対して向精神薬使用によって患者様のQOL (Quality of Life) の向上を目指しています。

2. 統合失調症は現在でも精神科における主要な疾患であることは周知の事実です。
最近是非定型精神病薬も使用することにより、患者様のQOL改善を図っています。
3. うつ病、うつ状態については最近自殺者増加により、改めて国民の関心を集めています。
当科では少しでも診断精度の向上を目指すこと、**選択的セロトニン再取り込み阻害薬** (Selective Serotonin Reuptake Inhibitors; SSRI)、**セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬** (Serotonin & Norepinephrine Reuptake Inhibitors; SNRI) などの新しい抗うつ薬などの使用により副作用がより少なく治療ができるよう目指しています。
4. パニック障害は総合病院の特性上よく受診されます。
従来の精神療法に加え、SSRI、SNRI等の抗うつ薬も一定の効果があることが分かっています。うつ状態を伴うこともありますので治療をお勧めしています。

その他

総合病院の精神科として他の身体科と医療連携をしながら治療する利点があります。

現在の様々な制度がある中で精神保健福祉士が各種の相談に応じ、患者様にとってよりよい制度の利用法について相談することが可能です。

リハビリテーションとしてデイケア施設を利用することができます。

入院治療が必要な方の場合は、精神科病床を有する病院を紹介させていただくことがあります。

社会的活動

社会全体の精神科への期待、必要性の増加に伴い、当地域での各種委員会への参加、講演、地域作業所の嘱託等を通じて、精神医学の理解、治療レベルの向上に寄与しております。

トピックス

医療安全対策委員会活動について



1999年1月、横浜市立大学附属病院で心臓手術患者と肺手術患者の取り間違い事故が発生しました。この事件ではその後、関係者が刑事責任を問われ、業務上過失傷害の競合により、執刀医と麻酔科医それぞれ2人、病棟看護師、手術室看護師の計6人が有罪となりました。以来わが国では「医療は何よりもまず安全でなければならない」という認識が高まりました。また、善かれと思って行った医療行為も、その結果によっては刑事罰を科されることがあるということは、私たち医療関係者にとってショッキングなことでした。

当院では医療安全対策委員会で医療安全のための対策を検討しています。手術患者確認手順については、先の事故を受けて、2005年に手順書ができていました。しかしながら、せっかくの手順書も現場では利用されませんでした。そこで委員会では2006年5月から1年近くかけて手順書を改訂し、あらたに手術患者部位確認マニュアルを作成しました。現在では広く利用されています。



どんなに素晴らしいマニュアルも、利用されなければ宝の持ち腐れです。そのために、各種研修会や講演会を通して、職員一人ひとりの医療安全に対する意識の昂揚にも努めています。

(医療安全対策委員長 辻 博記)

新任ドクター 紹介



●脳神経外科医長
 上山 浩永
 (かみやま ひろなが)
 専門：脳血管障害、脊髄疾患、脳神経外科一般



●整形外科医員
 日比野 直仁
 (ひびの なおひと)
 専門：手の外科、整形外科一般

講演・勉強会のご案内

1. 第13回黒部市民病院公開医学講座

日時：11月3日、11月10日、11月17日(各土曜日、全3日間)
 午前9：00～午後12：10(90分間2講義/日)
 場所：本館3階 講堂
 受講料：1,000円
 (1日講義のみ希望の場合は500円/日)

2. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日
 午後6：30～午後8：00
 場所：本館3階 指導室

3. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日
 午後6：45～午後7：45
 場所：本館3階 指導室

4. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日
 午後6：40～
 場所：本館3階 指導室